

総主題 虹の架け橋を見上げて

副主題 平和、寛容、多様性へ



会報

日本福音ルーテル教会
女性会連盟

26期 170号

2025年4月20日発行



わたしは雲の中に虹を置く。
これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。

創世記9章13節



キリストが土台

日本福音ルーテル保谷教会

牧師 坂本 千歳

しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。弟子のヤコブとヨハネはそれを見て「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。イエスは振り向いて二人を戒められた。

ルカによる福音書9章53-55節

「自分たちと同じであってほしい・・・」。そんな弟子たちの排他的な熱意に、イエス様は寛容を教えられました。私たちも何らかの活動に熱心に取り組んでいる際、周囲の人たちが賛同し、協力してくれると心強く思うものです。しかし反対に、誘ったのに断られたらどうでしょうか？ さびしさ・うらめしさ、もしかしたら怒りのような感情すら込み上げてくるかもしれません。このようなすれ違いは日常の人間関係のうちでも起こるものですが、もちろん教会の交わりにおいても例外ではありません。もし、私たちが「同じ信仰を持っている者同士なんだから、すべて分かり合える」という思いを抱いているならば、そのような甘い幻想・期待は、あっという間に崩れ落ち、自分の意見や活動に賛同してくれない人がいると、「同じクリスチャンなのにどうして?」などと、非難めいた気持ちが頭をもたげてきます。もしかしてその根底には、自分自身を土台に据えている生き方があるのかもしれませんが。

しかし、私たちの土台は、あくまでもイエス・キリストということを忘れないようにしたいと思います。

います。私たちは自分を中心に据えた生き方から、試練と誘惑と葛藤、また多くの挫折、そして悔い改めを経て、主イエスを中心に据えた生き方に変えていただかなくてはならないのです。そのプロセスを共に担い合い、とりなし合うのが教会の交わりなのでしょう。キリストという、ただ一つの土台の上に、神様によって一人一人が集められ、出会わせていただいているのです。そうはいっても、「土台が同じだから、他のこともきっと同じはず」という勘違いもまた起こりがちです。だからこそ、パウロは言うのです、「土台は同じでも、それぞれ素材が違うのだ」と。彼はコリントの教会の信徒たちに宛てた手紙の中で、「イエス・キリストというすでに据えられている土台を無視して、だれも他の土台を据えることはできません。この土台の上に、誰かが、金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、おのおのの仕事は明るみに出されます。」(I コリント3章11～13節抜粋)と書いています。すでにイエス・キリストという土台は据えられており、その土台の上に私たち一人一人が家を建てあげていきます。生まれ持った個性、育った環境、人生の歩み、携わる活動は実に多様なものです。神様がその人だけに与えてくださった賜物、ユニークな素材で、その人らしい味わいのある人生を建てあげ、それらが調和して土台を美しく彩るものであったなら、主にある交わりはどんなに豊かで幅広く、また私たちの存在の深みに訴えかけてくるようなものとなることでしょう。